

中学生の部

最優秀賞

神奈川県知事賞

人間らしさを尊重することの大切さ

神奈川県立平塚中等教育学校

二年 會 田 紫 乃

私の祖母は認知症です。祖父が他界してから一人で生活していましたが、言動が少しおかしかったため、病院で調べてもらったところ、認知症だと分かったそうです。記憶が曖昧になって不安になるので、パニックになり母に電話をしてきたり、物をしまった場所を忘れて、盗まれたと勘違いしたり、徐々に様々な症状が出てきました。一人で生活をさせるのが心配だった母は、祖母を我が家へ連れてきて、暫くの間、一緒に生活をしました。

我が家はもともと父方の祖母と一緒に住んでいるため、母方の祖母が我が家にやってきた時は、祖母が二人いてかなり賑やかになりました。私は二人の祖母が大好きなので、とても

嬉しかったのですが、暫くすると色々な事が起こりました。

ある日のこと、祖母が財布がないとパニックになっていたので、みんなで財布を探しました。母が風呂場で財布を見つけたので、小言を言いながら財布を持っていくと「やっぱりあなたが盗んだ」と今までに見たことのないような目で母を睨みつけていました。自分のせいにされた母は泣き、それを見た祖母も盗まれたと泣き、大騒ぎになりました。そんなことが繰り返し起こり、母はネットで認知症の対処方法を調べ始めました。

認知症の方への対応で一番大事なことは、不安にさせない事だそうです。認知症になると、いろいろなことができなくなり、コミュニケーションが取れなくなってしまう一方で、相手の顔の表情だったり、言動には今まで以上に敏感に感じ取るそうです。認知症の方は、とても繊細なんだなと初めて知りました。

母は私たちにも、次に何かあった時には、必ず大丈夫だよと笑顔で接し、手を繋いだりするといいということを教えてくれました。

暫くして、祖母がまた財布をなくしました。私は、「大丈夫、絶対どこかにあるから一緒に探そう。」と笑顔で祖母に話し、不安にならないようにしました。財布は母が見つけたのですが、母は財布をそのままにして、祖母をその場所に誘導して、祖母が自分で見つけたように演じました。すると、祖母は「こんな場所にあったわ。」と前回のようなパニックにもならず、みんなが笑って事が済みました。私も「良かったね。」と言うと、祖母は「一緒に探してくれてありがとう。」と笑顔になりました。

私は、このような経験をし、認知症の方は接し方によって言動が変わってくるのだということに気づき、この接し方について調べてみました。

認知症のケアのひとつとしてユマニチュードという技法があるそうです。ユマニチュードとは、人間らしさを尊重するという意味があり、ケアをする人は、ケアを受ける人に、「あなたを大切に思っています」「あなたはここにいますよ」ということを接し方で伝えるそうです。水平な高さは「平等」、正面の位置は「正直・信頼」、近い距離は「優しさ・親密さ」、時間の長さは「友情・愛情」というメッセージが伝わることで、穏やかになるそうです。認知症の方と接していると、ついイライラしてしまい、辛くあたってしまうこともあります。このような技法を全ての人を知り、寄り添っていけば、認知症の方も普通の生活が少しでも長くできるのではないかと思いました。

祖母は、我が家にくると、洗濯と掃除を嬉しそうにやってくれます。洗濯と掃除をしている時の祖母の顔はとても生き生きしています。私は、いつまでも、そんな笑顔の祖母を見ていたいなと思いました。